

軽水炉安全技術・人材ロードマップにおける 「各マイルストーンでの目指す姿」について(案)

軽水炉安全技術・人材ロードマップにおける 「各マイルストーンでの目指す姿」について(案)

- ◆ 原発依存度によらず安全確保のために必要な軽水炉安全技術開発や人材育成の取組について、その成果の達成度や継続の妥当性を社会的背景の下で立ち止まって評価すべきと考えられる指標の将来の特定年限を「マイルストーン」として仮置きするが、幅広い関係者間で目的を共有するためにも、各マイルストーン毎に、短い言葉で表現される標語が必要ではないか。
- ◆ ただし、標語はエネルギー基本計画等、現時点における政策方針を踏まえており、マイルストーンや、目指す姿、標語は、今後のエネルギーミックス等の政策動向に合わせて適宜見直しを行う。

「各マイルストーンでの目指す姿」の標語

～2050年

世界のエネルギー需要の増加や、G8首脳宣言等における、2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出量の少なくとも50%削減を達成するとの目標を見据え、原子力利用のデメリットの低減とメリットの向上を更に進めることで、世界の地球温暖化対策に不可欠なゼロエミッション電源としての重要なオプションとなることを目指す。

～2030年

自律的な安全性向上の枠組みに対する信頼の下に、安全確保に必要な投資を着実に実施し残余のリスクを低減させつつ、原子力利用のメリットを高めることにより、エネルギー需給構造における重要なベースロード電源として受容され、適切に活用されることを目指す。

～2020年

科学的な規律に基づく自律的な安全性向上の枠組みの構築を目指す。